



かみすぎ
上杉英会話教室（宮城）
サム マーチー
尚絅学院大学特任准教授

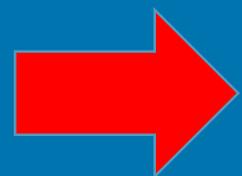


「音声重視
トツプ¹ダウン¹処理式
の授業に潜む
落とし穴」

2020年 8月20日

日本多読学会年会 発表

「**読んだ後に**、『この文は何て言ってるの?』と聞いても、**あまり答えられないんです。**」



保護者からの相談

理解度

内部

発音

表情

流暢性

音量

外部

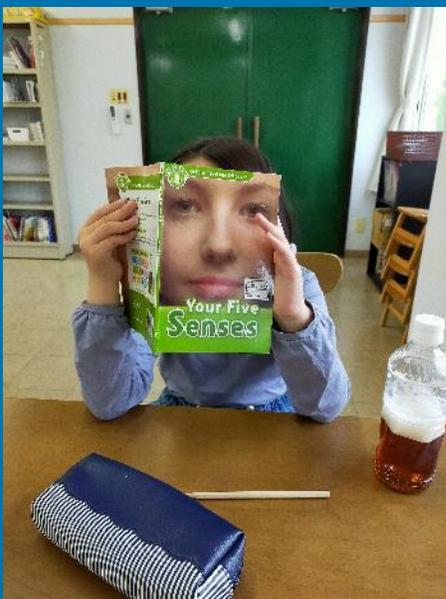
音読の諸要素

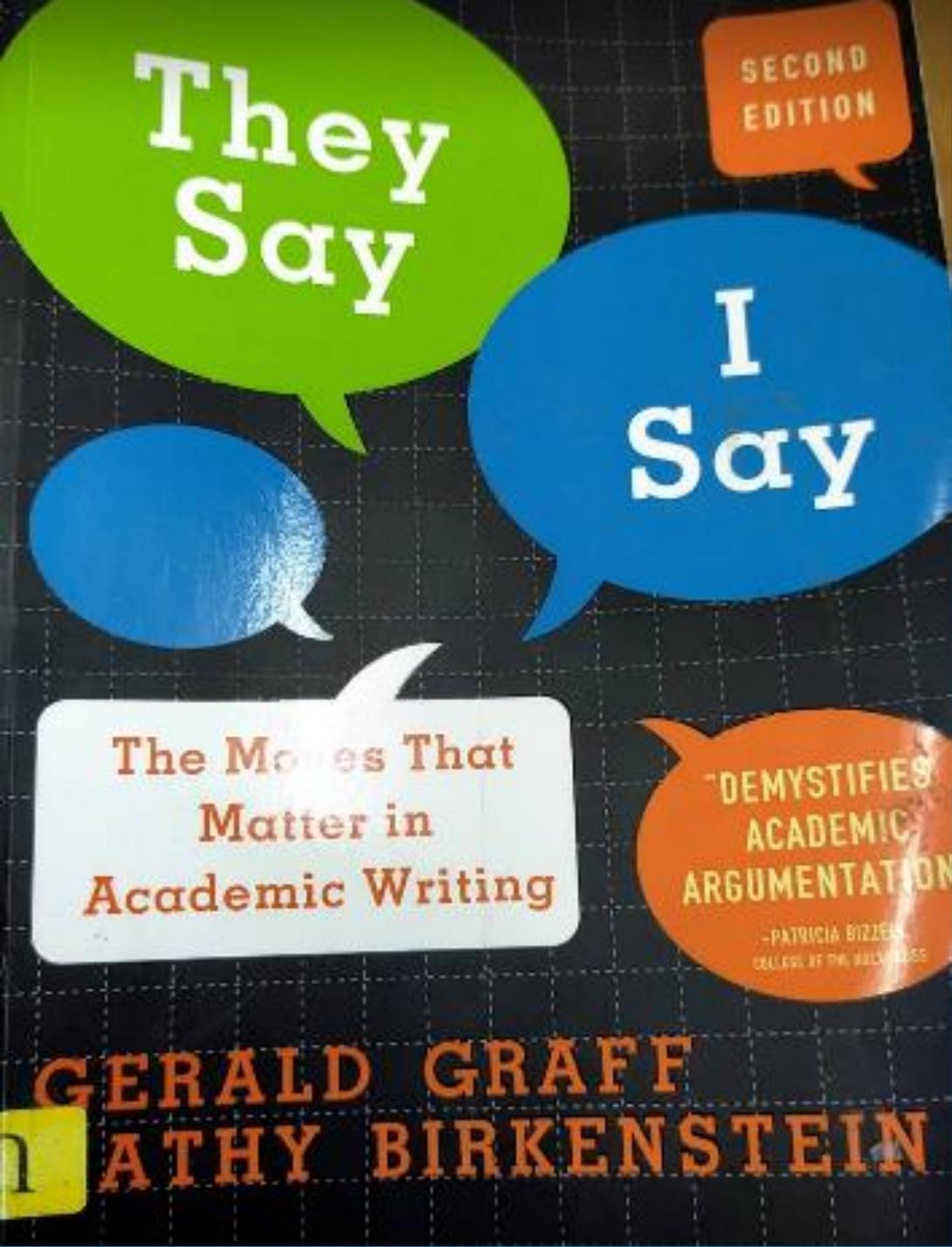


発表で達成したいこと

音読の指導法と
効果を再考して欲しい

”

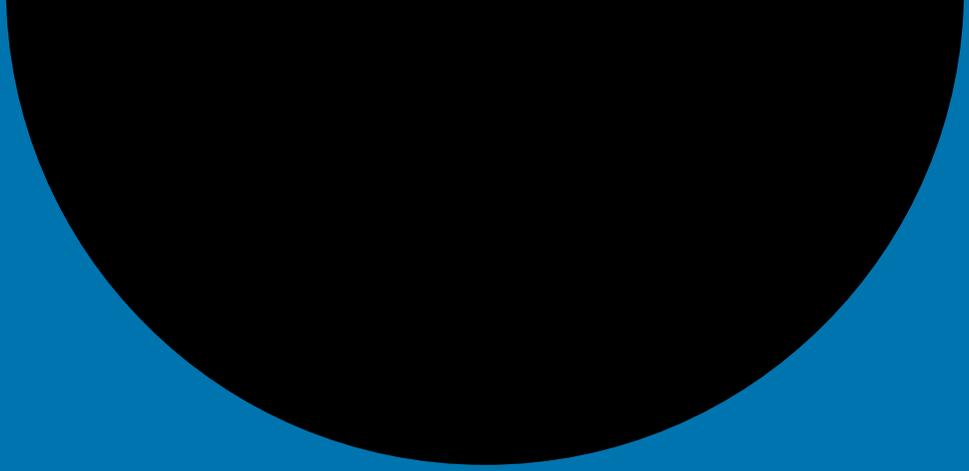


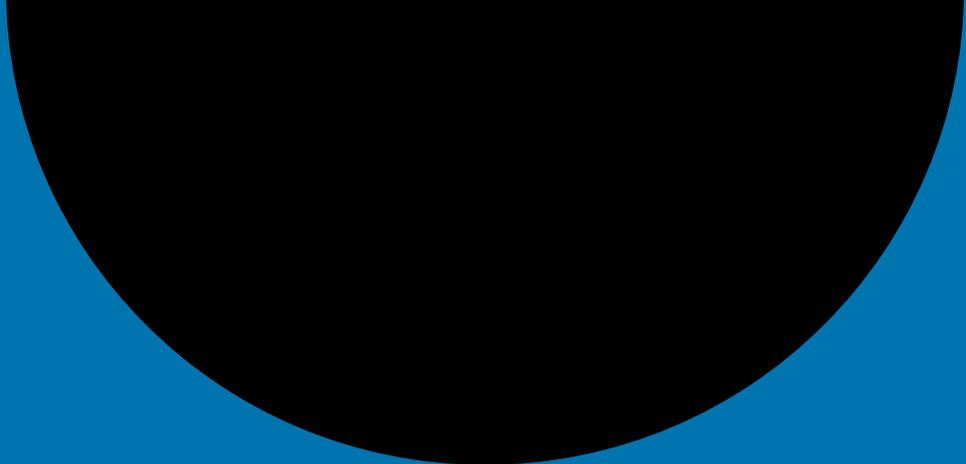


Introduction xiii



“When writing responds to something that has been said or might be said, it thereby performs the meaningful task of supporting, correcting or complicating that other view.”

- 
- ① 既成概念を更に強化する
 - ② 既成概念を覆す
 - ③ 既成概念を更に掘り下げる・複雑化する・文脈化する（一概には言えないことを示す）



多読としての音読

”

背景

小学2年生（男子）

- ・年長～通塾
- ・宿題の取り組み・完成度（高い）
- ・週1回レッスン（60分）Max6人
- ・英語の発音（日本語訛りは低い）

▶ **生徒は課題の実行責任を全うしている。**
領域によって結果が異なる。

実行責任
▶ 生徒

結果責任
▶ 先生

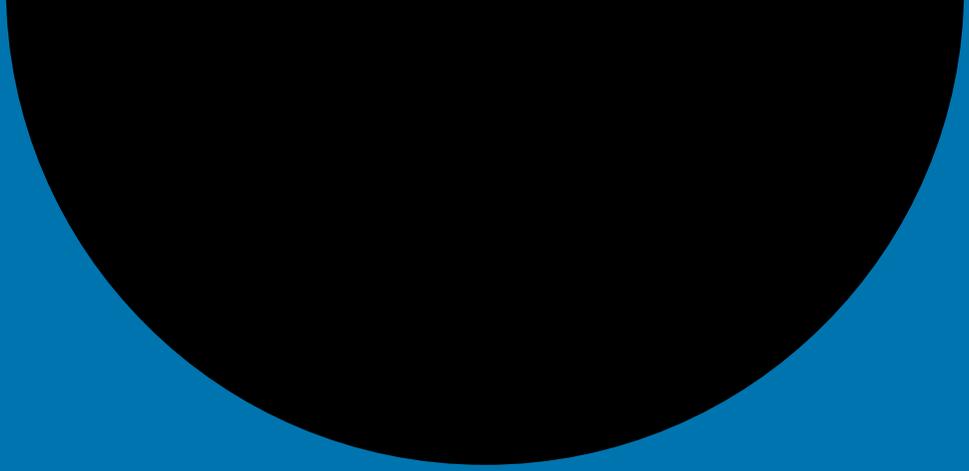


どんな落とし穴？

音声運用力レベル ≠ 文章処理能力レベル

音読が理解を妨げるなら完全に除外した方がいいのか？

- 『日本人中学生において、継続的な音読指導は学力を向上させる』
 - ↳ 調査の結果、上記の仮説が指示されなかった。(新澤 2005)
- 『英語学力向上のための音読指導の工夫』(高澤 2011)
 - ↳ 「Comprehensionの観点においては両群の差は有意ではなかった。」
- 「音読するということにエネルギーが注がれ、内容の理解までにエネルギーがまわらない」(羽鳥 1977)



**Don't throw the baby
out with the bathwater.**

- ・『**外国語としての英語(EFL)の読解における音読の役割**』（藤永、2016）
 - 『**テキストを声に出して読むことを通して言語材料の定着や読解技能の習得を目指す、いわば「練習、訓練方法」としての音読、あるいは、表現活動の一環としての音読ではないだろうか。**』

- ・『**英語の音読指導が学習者による音読過程の認識に及ぼす影響**』（飯野2005）
 - 『**音読を読解プロセスで説明するという研究の枠組み事態に再検討を加えること**』

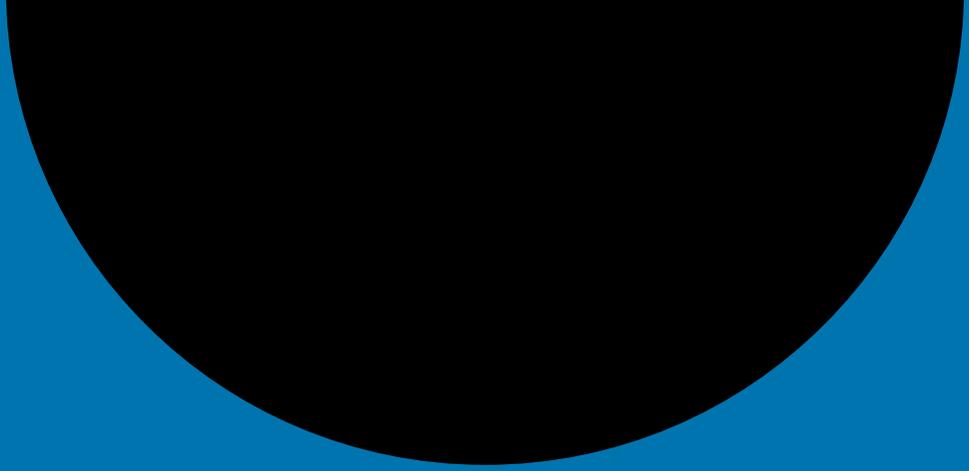
- ・『**音読練習の方法が音読の熟達度に及ぼす影響**』（飯野、阿久津、鈴木2008）
 - 『**やり方次第で成果が変わる**』

② 理解度以外の領域への影響

- ・正しい発音の定着・血肉にする
- ・スピーチ大会に役に立つ
- ・生徒の誤認を早期発見しやすい

What's the path forward?

•



👉 多読三原則 #1の徹底

実践面

▶ 黙読と比べてYFLの低いものの

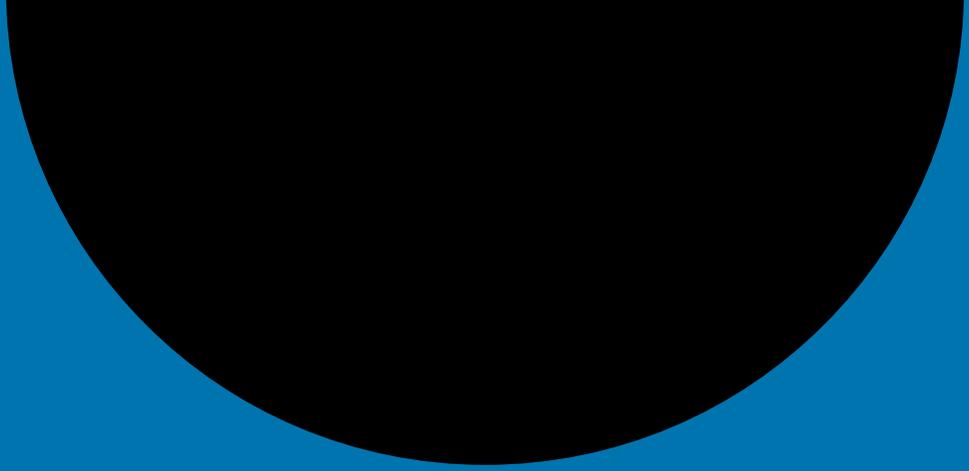
・SSRと全く同じ ▶ ただ読めばいいわけではない。

多読三原則#1の基準細分化

音読用と**黙読用**で分ける

マインドセット

常に、「よりよい方法はないか？」
と考え続けることの必要性

- 
- **暗記を視野に入れた音読**
 - **聞き読み後の暗記**
 - **内容の事前確認**

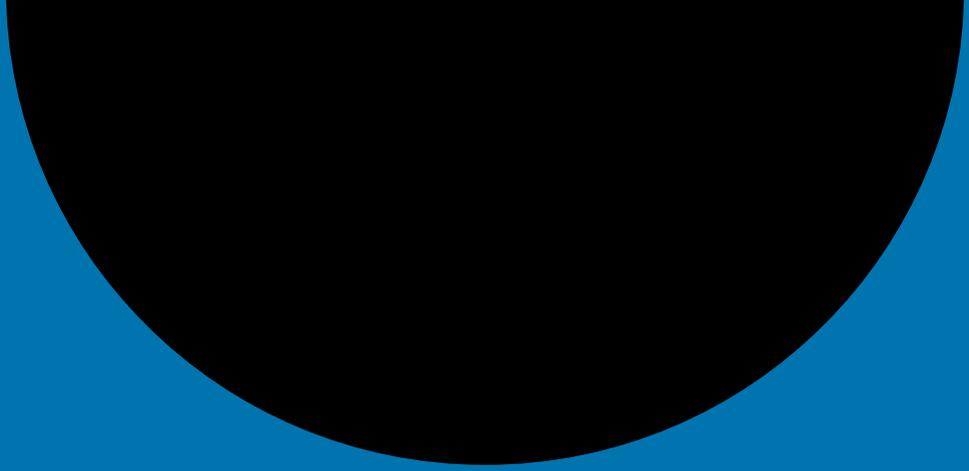
「音読」 vs 「黙読」の対立はNO

音読は多読のもう一つやり方 YES

(長所を最大・短所を最小化)

音読に潜む可能性を広げていく

オープンマインドとアクション



**Thank your time and
attention.**